

『みえない、いと』

緋岡 篝作（読み：ひおかかがり）（光丘＝ヒカリガオカ アナグラム）

2016年度山口県高等学校演劇発表会最優秀賞受賞
2016年度中国地区高等学校演劇大会優秀賞受賞
2016年度春季全国高等学校演劇発表会（@大垣）出場

作品紹介

<子どもの貧困> シングル家庭の母子愛と
高校生の進路選択の葛藤を描いた作品。

登場人物

メイン5人～

上演許可はこちらをお願いします。

drama.club.at.hikari.city@gmail.com



この作品の趣旨を御理解いただいておりますら、

時代や上演団体に合わせて自由に改変いただいてもかまいません。

『みえない、いと』

緋^ひ岡^{おか}

篝^{かがり}

岡村亜衣（あい）
亜衣の母
結（ゆう） 同級生 声優志望
紡（つむぐ） 同級生 漫画家志望
絃（げん） 同級生 美容師志望
鈴木縁（ゆかり） 同級生 美容師志望
森紅留美（くるみ） 同級生 四大志望
紅留美の母
縁の母
自治会長
班長
若い頃の父
幼い亜衣
少女 A の父
少女 A の母
少女 A
踊り子



張り巡らされた糸 繋がっているはずの糸 でも、みえない、いと
伝わらない思い、見えそうな心、でも、見えない意図

それはしがらみ？ それとも、仕合わせ？

「わたしのままで、ごめん」「私のママで、ごめん……」

#1 風船の思い出

緞帳前、亜衣が上手から「糸」を歌いながら入ってくる。中央で立ち止まり、歌声が音響 BGM 諫山実生の『糸』と重なる。緞帳が開く。音響を残し、亜衣、母の元へ駆け出す。暗闇の中に浮かび上がるシルエット。(バトンから、織りなされた布、あるいは絡み合ったしがらみを表すモチーフが吊るされている。)

舞台中央には、風船を配る踊り子。下手に子ども時代の亜衣と若い両親。踊り子を挟んだ上手にはもう一組の幸せそうな親子、少女 A とその両親がいる)

踊り子、脚を上げ、軽やかに回転する。踊り子が少女 A に近づき風船を渡す。

少女 A ありがとう。

少女 A よかったな！

少女 A すごおい！ お姫様みたい。

少女 A、踊り子を真似て、くるくると回る。

少女 A バレリーナなのね、あのお姉さん。綺麗ちゃんもバレエ習う？ あのお姉さんみたいになり

たい？

少女 A うん、やる、絶対やる！

少女 A おつ、そりゃ、いいなあ。綺麗なら将来は草刈民代か蒼井優だ！ いやあ、楽しみだなあ。

俺もやってみようかな。

少女 A タイツ履くの？ きもおい。

少女 A えー、きもい。

少女 A パパは綺麗の王子様だもん。

少女 A えー、ママがいい。

少女 A が踊り跳ねるのを見て、幸せそうに会話する夫婦、仲睦まじく去っていく。

少女 A をじっと見つめる亜衣。

踊り子が近づき、亜衣に風船を渡そうとする。

踊り子 どうぞ。

亜衣 (母に) もらっていいの？

亜衣母 いいよ。

嬉しそうな顔で、母を見上げる亜衣。踊り子に差し出された風船を手にとった瞬間、風船が飛んで行きそうになる。踊り子、さっと風船を掴み、再び亜衣に渡し去って行く。

亜衣 ありがとう。

亜衣母 亜衣もバレエ好き？ 習ってみる？

亜衣 うん。やる。

亜衣父 (煙草を投げ捨てて) はあ、バレエ? いったいなんぼかかると思っちゃるんか。

亜衣母 私がパートしてもいいし。

亜衣父 そねえな金で足りるか。

亜衣、泣き出す。

亜衣母 亜衣、亜衣、泣かんで。

亜衣父 (頭を掻きむしり) やかましい。泣くな、そんぐらいで。黙らせろ!

亜衣母 せっかく亜衣がやりたいって言いよるんじゃけえ、ちよつとだけでもやらしてみようやあ。

亜衣父 その話はもう終わりじゃ。

亜衣、大声で泣きじゃくる。

亜衣母 亜衣、泣かんで。パパ、もつと怒るよ。

亜衣父 ええ加減にせえ。(母と亜衣を突き飛ばす)

諫山実生『糸』二番に合わせて、二人を次々に突き飛ばす父をストップモーションで描く。

風船が飛んでいく。 亜衣、泣くのをやめて、呆然と風船を見上げて、届かない糸に向かっていつまでも手を伸ばす。

母、亜衣を抱きしめる。

亜衣父 お前が余計なこと言うけえじゃろうが。子どもなんか金ばっかりかかって全然ええこたあない。お前が意地でも産むっちゃうけえじゃ。俺は知らんつーたんじゃけえの。

暗闇の中、亜衣一人残される。そのまま、#2のセットに転換すると同時に、雨音が響き始め、高校生になった亜衣と幼い亜衣が入れ替わる。

#2 通り雨

にわか雨が降り出した昼下がりの街。スナックエロイカの前。

結、紡、絃、縁が雨宿りをしにエロイカの軒先に飛び込んでくる。

五人はこの近くの専門学校徳松アーツカレッジに体験入学に行った帰りである。

五人、それぞれに降りかかった雨を払っているが、亜衣は、じっと空を見つめ、ぼおつとしている。

紡 亜衣ちゃん! 亜衣ちゃん大丈夫?

亜衣 (紡の声にはっと気づいて、おどけてポーズして) 水も滴るいい女。

縁 (スナックエロイカの看板を指さして) 何この店。スナックエロイカだって。(イカの形態模写) なんで、イカ?

絃 エロいっつったら、タコやろ。

縁 何で？

絃 ちゅうーってするじゃん。

縁 ちゅうー。

亜衣 ちゅうー……じゃなくて、エロイカって英雄って意味なんて。

縁 嘘。

亜衣 本当。じゃあ私ん家この裏やけえ。バイバイ。(雷に脅えて) キャー！

亜衣、
全員、
雨宿りから出ようとするが、雷に悲鳴をあげ立ち止まる。
叫び声に驚き、叫び声が連鎖する。

亜衣 びっくりした。

紡 大丈夫？

亜衣 うん。

結 亜衣ん家近くなん？

縁 結も知らなかったん？

結 うん。

縁 じゃあさ、亜衣ん家で雨宿りしよ！

亜衣 ちよっと待って。

紡 (亜衣の表情が強張ったのを見て) ちよっと縁、勝手なこと言うなよ。

亜衣 (取り繕おうとして) なんていうか、その、ダメなんちゃ。うち、猫の額やし。

絃 猫？ にゃああん。猫もふもふしたい！

縁 え？ マット敷いちゃあるってこと？

絃 (縁の額をぺちんとして) 猫の額は狭いじゃろ？

亜衣 っていうか、ドアを開けたら、すぐ壁みたいな。

亜衣、
パントマイムでドアを開けて、壁にぶつかる様子を演じてみせる。

結 やだ、亜衣。それはないじゃろ。(甘えた声で) ね、紡くん。

紡 おもしろえ。行ってみたかったりする。

縁 狭くてもええよ。雨がやむまでやけえさ。

亜衣 実はねえ、うちには山姥が帰って来るんよお。みんな見つかったら、八つ裂きにされるけえ。

雷鳴が轟き、縁のスマホから「HHH「Feels like HEAVEN」が流れてくる。一同、悲鳴を上げる。
紡、

結の影に隠れる。縁の携帯着信音だと分かり、一同苦笑い。結、恥じらいつつも嬉しそう。

紡 (結に) あ、ごめん。

縁 何？ あ、紅留美？ そっちも終わっちゃったん。じゃあ今から亜衣ん家来る？ 駅近く

絃 なんかや。じゃ駅来たら連絡してね。じゃあね。
絃 (縁の着信メロディに対して) 趣味悪い。
紡 縁、何勝手なこと言ってるんだよ。
亜衣 いや、片付けられない女なもので、足の踏み場がないというか、浮いてても無理っていうか。
絃 大丈夫、浮力なら任せてください。(パタパタと飛ぶ真似をする)。
結 亜衣、そんなの気にせんよ。(だから行かせて！)
紡 (思わずスナックエロイカの壁を叩き) 亜衣ちゃんが嫌がっちゃうやけえさ。
結 (驚いて) きやつ！(でも嬉しそう)
絃 やだあ、紡かつこいい、結ちゃんに壁ドン？ (紡を真似て) 「亜衣ちゃんが嫌がっちゃうやけえさ」
亜衣 (大げさに) そうそうそう、嫌がっちゃお。ごめんね、みんな。
縁 (亜衣の誇張した表情を面白がって) ちよつと亜衣。やっぱ押しかけちやる。
紡 お前ら、厚かましいんだよ。いいじゃん、コンビニで雨宿りしていこう。
結 (嬉しそうに) うん！
縁 でも、コンビニじゃあ、人生マツチ、出来んじゃん。ねえ。
結 何？ 人生マツチって？
縁 知らん？ ボードゲーム。
結 いや、それは分かるけど？ (やるの？ やるんだったら、すつごく嬉しい！)
絃 持ってきちよんよ、小っちゃいやつ。
縁 人生かけて、人生マツチやる約束じゃんね。
紡 そんな約束、いつした？
絃 今したんですう！ 今！ ジャストナウ！
結 (ゲームをやりたい気持ちいっぱい) 亜衣、本当に嫌なん？
縁 せつかくこんなに盛り上がってるんやけえさ、ね、ね。
紡 (ちよつと人生マツチに惹かれて) 亜衣ちゃん、どうかな？
亜衣 (実は本当に困って) えええつ、どうしよつかなあ。
絃 じゃあ俺、亜衣ちゃんのジュースおごっちゃうし！
縁 全員分、よろしく。
絃 じゃあ、縁、お菓子よろしく。
結 亜衣、いい？
縁 ね、お願い。
絃 神様、仏様、亜衣ちゃん様！
縁 亜衣ちゃん様！
亜衣 (しぶしぶ……、でも開き直って) まあ、そこまで言うならしょうがねえなあ。
紡 (心配そうに亜衣を覗き込み) ええん？
絃 (紡を見つめて) うん。
紡 ヒューヒュー。それでは買い出し部隊はコンビニへ突撃いたします。紡、先行ってよろしくやあってねえ。(敬礼をする)
紡 変な言い方するなよ。

結 絃くんと縁は、亜衣ん家、分かるん？

亜衣 あ、このスナックの裏のアパートの七階七〇三。

縁 OK、分かんかったら、ラインするし。

絃 エロイカ裏のななざろさん……あ、「エロイカなおっさん」ってことで！

紡 くだらないこと言ってるで、さっさと行きやがれ！

絃 はいはいじゃあね、アデュー（決めポーズ）！

縁 アデュー（決めポーズ）！

絃と縁は、コンビニに向かって駆けていく（上手に退場）。

亜衣、結、紡は、裏のアパートに向かって退場（舞台奥上手に退場）。

#3 コース変更

亜衣を先頭に、紡、結が部屋に入ってくる。カウンターキッチンのついた小さな部屋。

単身者用のワンルームに母娘で住んでいる。中央にシンプルな座卓、奥にソファアーベッド（夜にはベッドとして使われる）。部屋の前には洗濯物が干されたベランダがある。今は雨に濡れた洗濯物がかかっている。

実際には見えないが、玄関入って、下駄箱、納戸、ユニットバスが並ぶわずかな廊下があり、このキッチン付の部屋に繋がる。それが、この住まいの全てである。

（光丘高校の演出では、コロ付きのパイプのみの構造物をカウンターとして使用。カウンターの向こう側の演技が見通せる。カウンターの置き方により、意図的に視点を変えて見せる。ベランダの洗濯物や日用品などはマイムで見せる。見えるものは見せず、見えないものを見せる工夫。#2 のスナックエロイカのセットも、玄関前のセットも、パイプの構造物の置き方を変えて表現した）

亜衣 （紡にタオルを差し出しながら）はい、タオル。

紡 ありがとう。

亜衣 はい、結も。

結 ありがとう。

結 （部屋を見渡して）え、全然きれいじゃん。ねえ？ 紡くん。

紡 うん、全然。

亜衣 でも、狭いじゃろ。うち、お母さんと二人暮らしなんやけど本当は一人暮らし用なんよね、ここ。

結 （紡に）あ、タオルもらおうか？

紡 （亜衣の話を懸命に聞いていて、結の言葉に気付かず、やや遅れて）……あ、ありがとう。（はしゃいで、踊り出し）ウェルカムトゥーマイスイートホーム！（座卓の周囲を指して）どうぞ、どうぞ。

踊った拍子に亜衣のスカートがめくり上がる。

紡、それを見てしまい顔を覆う。

結 もう、丸見え！
亜衣 きゃあ！
紡 見てない！ 見てないから！
亜衣 やだ紡くん、見なかったことにして。
紡 いや、ほんとに見てないから、ていうか見えてないから……。
亜衣 あら、残念。
結 やだ亜衣。

紡、亜衣と向かい合って座り、落ち着かない感じ。結、紡に寄って座り、嬉しそうに話しかける。

結 ここ、駅から近いけえいいね。紡くん家も、下山駅の近くよねー。私、望駅から遠いけえ大変なんだ。通学も自転車漕いで、坂を必死にガーって。

亜衣 (おどけて自転車を漕ぐ真似をして) 前髪全開で、こんな感じで漕いでるんでしょ？

結も立ち上がり、二人はしゃいで自転車を漕ぐ真似をする。

紡 亜衣ちゃんってさあ……

亜衣 え、なに？

紡 あ、いや。

亜衣 え、なに、気になる。

結 (ちよっぴり複雑) 言つてよ。気になるじゃん。

紡 いや、亜衣ちゃんって、すっごく明るいなあつて。

亜衣 そんなこと、ないよ……(大げさにしなを作つて) 私だって悩める可哀そうな少女なのにー。

結 もう、亜衣つ。(亜衣を大げさに抱きかかえて) 女優なんだからあ。(紡に) ねえ！

紡 うん！

結 あ、でも、女優は顔が要るか。

亜衣 それを言うか！ いいもん、私はミュージカル女優だから、厚塗りメイクで顔は見えません。自分で言う？

紡 (力強く) 亜衣ちゃんなら、まんまで勝負できるよ。

笑い合っていた亜衣と結、紡の言葉に啞然。

亜衣 さっすが紡くん。やつさしい！(席に戻る)

結 (紡と亜衣の 2 人が見つめ合う様子を見て、ちよっぴり複雑。席に戻りながら) ……紡くんは漫画学科だったよね？ 漫画学科どうやった？

紡 ああ、プロデビューした先輩とか来ちよったけど。まあ専門学校行つたから保証されるって訳じゃないから、きついよね。

結 それは、声優も同じ。お互い厳しい道だけど頑張ろうね。
紡 (素っ気なく) うん。亜衣ちゃんはどうかやった？

結 ミュージカルコースはもつと大変よね。

亜衣 (誤魔化すように) うん。

紡 え？ ビジネス学科じゃったよね？

結 え？

亜衣 (気まずそうに一瞬結を見て) あ、うん。公務員コースです！

結 (ものすごく驚いて) なんで？

亜衣 せっかくの頭脳を活かさない手はないかなってね。

結 裏切ったん？ 一緒に夢叶えるって……。

紡 (笑いながら) 結ちゃん、裏切りって……。

亜衣 まあ、私の才能を世間がほっとくわけないから、そのうちスカウトがいっぱい来て、公務員なんてやってられんこうなると思うけどね。

結 世の中そんなに甘くないよ。

紡 俺も漫画学科行かんでも、自分でガンガン描けばいいんだけどね。

結 でもさ、学校に行くのってさあ、間違った努力をせんようにってことじゃないん？

亜衣 大丈夫。私、間違えんけえ。(決めポーズ！)

紡 いいな、亜衣ちゃんの強気！

亜衣 でしょー？(紡、亜衣、二人、顔を見合わせて大笑いする)

結 (笑い合う二人の顔を見て) ……なんか、私、ひとり馬鹿みたい。

結、荷物を持って帰ろうとする。

#4 人生マツチ

絃、縁が買い物袋を両手に提げて登場。

縁 もう！ 誰も LINE 気づいてくれんのんやけえ。持って。

縁、結にビニール袋を渡す。結、ビニール袋を受け取り立ち止まる。

紡 縁、チャイムぐらい押せよ。

縁 無理。

絃 あれれ、お邪魔だったかなあ？ (チャイム音を真似て) ぴんぽん。

紡 うるせえよ。

縁 両手ふさがつとるけえ。

紡 どうやってドア、開けたん。

縁 (その様子を絃とともに示そうと) こうやって、こう。

紡 じゃあさ、こうやって、チャイムも押せたんじゃないんですか。

縁 知りませーん。

亜衣 (縁の持つ買い物袋を見て) そんなに食べられる？

縁 朝飯前（決めポーズ！ 立ったままの結に気づく）。
 絃 夕飯前ですけどね。
 亜衣 縁っぼい。
 縁 なんじゃと？（結の肩を持つ）

結、縁に押され元の席に戻る。

絃 ちょっと、紡、手がちぎれそうじゃけえ、持って。（ビニール袋を紡に手渡す）
 亜衣 あ、コップ。（コップを取りに立ち上がるうとする）
 絃 紙コップ買ってきたけえ大丈夫。あと、紙皿とウェットティッシュも。
 縁 亜衣に迷惑かけたら悪いけえね。
 絃 そうそう、紡が怒るけえさ。
 紡 十分迷惑かけてるよ。無理やり押しかけて。
 絃 （紡にこっそり）いやいやいや、それはね、紡にね、チャンスをさ。
 結 （絃と紡のやりとりを見て）絃くん、紡くん嫌がつとるじゃん！

縁の携帯から「Feels like HEAVEN」が流れる。

亜衣 （縁に）もう。

絃 はーびっくりした。結ちゃんの後ろから背後霊が出てくるかと思った。
 紡 背後霊？

結 何それ。（思わず笑い、怒りが静まる）

縁 あ、紅留美だ。もしもし、うん、私も今来たところ。えつとね、そこを曲がって、あ、違う
 違う。「エロオヤジ」って名前のスナックがあるじゃん？

紡 エロイカ！

縁 あ、エロイカやった、ごめん。

絃 （携帯電話を引き取って）ほんでもって、アパートの 703 で、「エロイカなおっさん」。

縁 そうそう、その裏ね。じゃあね。

結 （紡に）自分ちじゃないのにね。

紡 （亜衣に）ほんと。こいつらの厚かましさには呆れるよな。

縁 ええんよ、人生マツチは人数おった方が楽しいんやけえさ。

紡 （亜衣に）ええん？

亜衣 うん。

絃 （紡と亜衣の視線の間を追って）おやおや？『ええん？』『うん』何かな？ この雰囲気。
 結 （むっとした感情を抑えて）そういえばさ、今日の体験入学、絃くんも縁も美容師コースや
 ったんやろ？ 何したん？

絃 あー、こうやって（巻く動作）まきまきした。

紡 何だ、それ。

縁 ロット巻いたんよね。

紡 ロット？

結 パーマの。

紡 へえ。

縁 あああああ、早く卒業して、カリスマ美容師になりたいーい。(絃とふざける)

亜衣、
ドアの音に気づき立ち上がる。紅留美が入ってくる。

亜衣 (紅留美に) 森さん……？

紅留美 (亜衣の呼びかけに気づかず、縁を後ろから叩いて) 縁、そんなに甘々で、働けるん？

縁・絃 (驚いて) 紅留美！

紡・結 (驚いて) 森さん！？

紅留美 紅留美でいいよ (決めポーズ) ！

亜衣 (紅留美にもう一度挨拶のつもりで) やっほー。

紅留美 (亜衣の声に気づかず、縁に) カリスマっていうのは、美容師の資格を取ったけえってなれるもんじゃないけえ。

縁 私はなれるし。

紅留美 いや、なれん。

紡 森さん、チャイム鳴らそうよ。

紅留美 鳴らしたよ。壊れとんやないん。

紅母 (マドレーヌ入りの籠を抱えて気兼ねしつつ入ってきて) 紅留美ちゃん、だから、お母さん言っただでしょ。

一同 あ、こんにちは。

縁 (マドレーヌを見つけて) あ、マドレーヌ！ もらっていいですか？ (籠の中のマドレーヌを掴む)

紅留美 ママ、やめって言ったやん。(母の腕を引っ張ろうとする)

紅母 どうぞ。(結と亜衣を見比べて) えっと、亜衣さんは……？

亜衣 あ、はい。

紅母 これ焼いたんだけど、良かったら食べてみてくれる？

亜衣 すいません！ (マドレーヌを受け取る)

紅留美 (母を押し帰そうとしながら) もう、ママ、余計なことせんでって。みんなが好きなわけじゃないんじゃないけえ。

紅母 紅留美ちゃん、おいとまする前に連絡してよ。下まで迎えに来るからね。(声をひそめて) ちよっとこの辺治安が良くなさそうだから。

紅留美 もう、わかったけえ、帰って！ (母を玄関の方に押していく)

縁 スナックエロイカ (イカの形態模写)。

絃 それそれ。

亜衣、微妙な反応。紡、亜衣の様子を窺う。

紅留美の母、退場。

絃 紅留美の母ちゃんってもしかしてマダム？

紅留美 世間知らずのお嬢なんちゃ。(スナック菓子の入った袋を見つけて) あつ、スナック菓子！

縁 (マドレーヌを口に入れたまま) 食べていいよ。(マドレーヌを喉に詰まらせ、途中で咳き

込んで言えなくなり) お茶とって、お茶。

紡 (縁の言葉を通訳して) 食べていいって。

紅留美 喉つまりよね、マドレーヌ。私飽きた。

結 お菓子作ってくれるお母さんって懂れる。

紅留美 (お菓子の袋を開けながら) 暇なんじゃない？

紅留美、ポテトチップスの袋を勢いよく開け、中味を飛び散らせる。

紅留美 何、この袋。

紡 ちょっと森さん、何やってんだよ。

一同、ポテトチップスをかき集める。

絃、縁、拾ったポテトチップスを食べようとする。

絃 まだこれ食えるっしょ。

縁 三秒ルール！

紅留美 (驚いて) この床大丈夫？ 食べん方がええんやないん。

紡 (激怒して) 自分が散らかしたくせに黙っとけよ。

紅留美 しょうがないじゃん。

亜衣 (ポテチのカスを載せた袋を持ち立ちあがりながら) 掃除機で吸うけえ、置いちよっていいよ。

紅留美 (どや顔で) よね？

紡 (亜衣に) ええん？

亜衣 うん。

亜衣、かき集めたポテトチップスの破片をキッチンのゴミ箱に捨てる。

絃 (ぼそっと) 『ええん？』『うん』何かな？ この雰囲気。

紡 うるせえよ。

紅留美 (ぼそっと) へえ……。 (家の中を見回し) 亜衣ちゃん家ってなんかこじんまりしてるね。

亜衣ちゃんの部屋どこ？

亜衣 そんなないよ。

亜衣、掃除機を取りに、玄関横の納戸(上手奥)に行き、掃除機をとって戻ってくる。

紅留美 ええ？ えええええっ！ すっげえオープンマインド！ ママに全部筒抜けじゃん。私絶対耐えれんわ。

絃 でもさ、家族の結束が強まるっていうか、いい意味でこのコンパクトさが、なあ、紡（紡に抱きつく）。

紡 （紅留美と絃を見て） お前ら！

縁 私お母さんになんでも話すけえ。全然大丈夫やし、秘密ないもん。

紅留美 まあ、縁はね。

縁 紅留美はなんかあるん？

紅留美 年頃やけえね。

亜衣、掃除機を持ってリビングに入ってきて、コードを引き出す。

掃除機をかける亜衣。絃の振る舞いを注意する紡。紡を複雑な表情で見つめる結。

紡 亜衣ちゃん、大丈夫？

亜衣 うん！

紡、亜衣の邪魔にならないようにお菓子の袋を移動させる。

縁 なに、なに？ 教えて、教えて。紅留美、誰か好きな人とかおるん？ ガールズトークしようやあ。ね、亜衣。

亜衣 （掃除機に集中していて、適当に） うん。

縁 ね、結？

結 （亜衣を見守る紡を見つめていて応答が遅れる） え？

縁 ガールズトーク。

結 男子おるじゃん。

縁 大丈夫、アウトオブ眼中やけえ。

紡 興味ないし、そんな話。

紅留美 嘘！

紡 ……（黙れ、森！）という思いでむっとする）

絃 あー！ そんなことより、ボーイも参加できる人生マッチしようよ。

縁 あ、そうやった、そうやった。（鞆の中の人生マッチを探し始める）

亜衣、掃除機を片付ける。紡、それを見て手伝う。

紅留美 人生マッチって……（縁が取り出した人生マッチを見て） 持ってきてちゃん？

亜衣 （紅留美に） ちよつと後ろごめん。（コンセントに掃除機のプラグを挿す）

紡 （掃除機を手に取り） 片付けるよ、どこ？

亜衣 玄関横の納戸。こっち。ごめんね。

紡 （満面の笑顔で） 了解。

亜衣、紡、仲睦まじく掃除機を持って納戸に向かう。結、悲しく見つめる。

絃
（紡、亜衣の仲睦まじい様子をカウンターから覗き見て）流石紡。チャンスは逃しませんねえ。

縁
（人生マッチの準備をしながら）何のチャンス？ ええけえ、広げて。

紅留美
（紡、亜衣、結の様子を見て）ふふ。

縁
はい、お札くばるよ。

紅留美
あ！ 私、銀行やる！

縁
よろしく！

紅留美
保険、入る人？

紡
（亜衣と話しながらルンルンで帰ってきて、亜衣に）保険は、入った方がええんかね。（横から）当然やる。

亜衣
（紡に）何か起こったときに払えばええんじゃない？ （紅留美に）私は要らん！

紅留美
アメリカとかやったら、保険に入らん貧乏人が病院にかかれなくて死んでいくんよね。

紡
（不快感を露わにして）森さん！

紅留美
紅留美でいいよ（決めポーズ）！

絃
まあまあ、所詮はゲームだし。亜衣ちゃんの一か八かの人生も俺はいいと思うよ。（亜衣の肩にわざとらしく手を置く）

紡
（亜衣の肩に置かれた絃の手を見て）ちよっ！

紅留美
……（笑顔で紡と結の反応を窺う）

亜衣
そうそう、スリルあつてええよね。一回しかない人生楽しまなきゃ！ いえーい！

縁・絃
いえーい！

結
（唐突にキツイ口調で）ええの？

一同、結の声に驚き黙る。

結
一回しかない人生なんよ。ええん、亜衣？

亜衣
（驚いて結を見つめ）はいはい、分かりました。保険、入る。（紅留美に手を差し出す）

結
保険じゃなくて。

亜衣
何？

結
夢、諦めてええん？

亜衣
なに、突然。始まったばかりだよ。諦めてなんかないし。

結
なんでビジネスコースに行ったん？

縁
えっ？（人生マッチの盤上を指さしながら）まだビジネスコースに行くって決めでいいんだよ。ルーレットまわしてから決めたらいいんだよ。

紅留美
（縁にさも分かった風な顔で）人生マッチじゃないと思う。

縁
（ぼそっと）知っとるわ。

結
（周囲を気にすることなく、ひたすら亜衣に）なんで急にやめたん？ なんて言ってくれん

紡 かったん？ ミュージカルコースやめるって。

紡 結ちゃん、今話すことじゃないじゃん。

絃 (凍りついた空気を和ませようと茶化して) あらやだ。

縁 なぁに、奥さん。

絃 三角関係？ 紡の取り合いみたいなの？

紡 (ちよっと嬉しい) くっだらないこと言ってんじゃねえよ。

結 (怒りを込めて) 止めてよ。

亜衣 (ふざけて) バレた？ ちよつと、まずいんだけどお……。全国五千万人の私のファンが泣

くことになるけえさ。内緒にしてもらえます？

紅留美 バレバレやし。結ちゃんは紡くんが好きで、

結 全然違うし。そういうの止めてくれる。

紅留美 紡くんは亜衣ちゃんが好きで、

紡 な、何言ってんだよ！

紅留美 亜衣ちゃんも……

亜衣 (紅留美を遮って大声で) で、絃くんも私のこと好きなんでしょ？

絃 (困惑して) は？ 俺が？ そうなの？

紅留美 いや、絃は縁やろ。

亜衣 (不満げに) えええつ？

縁 私？！

絃 (亜衣と縁を見比べながら) ストライク、バッテリーアウト。

縁 (絃を見つめて) アウト？

紅留美 違った？

亜衣 どうやろ？

紅留美 (絃と縁を見て) ほら、やっぱり？

絃・縁 (二人見つめあった後) ……ないないないない。

亜衣 (笑いながら) 秘め事は秘め事のままで。

絃と縁、溜息。

亜衣 順番決めよ。

縁 じゃんけんしよ！

一同、気まずさを抱えつつじゃんけんをする。絃が勝つ。

縁 じゃあ、絃から(一回りを示しつつ)こうね。

絃、ルーレットを回す。

絃 4！ おつ、医者になれる。やったね！

縁 すっげー。給料、一番高いんよ。

紡 (人生マッチの説明書を読みながら) 一番高いの、スポーツ選手だって。

紅留美 でも、スポーツ選手って、引退とか怪我とかあるじゃん。安定高収入を求めるなら医者やろ
(職業カードを渡す)。

亜衣 やっぱり、医者の妻か？ 絃くん、私をもらって。

紡 (亜衣の発言に反応して) ちよっ。

結 (紡の反応に) えっ。

絃 亜衣ちゃんには紡がおるやろ。

縁 (絃に小声で) やめちよきって。

亜衣 (ふざけて) えー、絃君が貰ってくれーん。

絃 俺に惚れちゃ、いけないぜ(かっこつけて、職業カードに口づけをする)。

紅留美 (絃のキメポーズに) 汚い。次、紡くん！

絃 え？

紡、ルーレットを回す。

紡 2。

縁 警察官になれるって。

亜衣 制服、かっこいいよね。

紡 (亜衣の言葉に舞い上がって) まじ？ いえーい！ (亜衣に指で作った銃を向け) バーン。

亜衣 (打たれた真似をして) うっ。(倒れる)

紅留美 (冷めて) 殺人やん。

紡 (素早く亜衣のそばに寄り) 大丈夫？

亜衣 (あわてて紡のそばを離れ) 大丈夫！

絃 正義の味方の紡にはびったり。

亜衣 うんうん。

紡 ほんと？

紅留美 3K？ いや4Kか。危険、怖い、キツイ、給料安い。

紡 (小声で吐き捨てるように) ……森。

紅留美 紅留美でいいよ(決めポーズ)！

紡、自分の言葉を紅留美に聞かれているとは思っていなかったの、きょとんとする。
絃、縁、その様子を見てふきだす。

絃・縁 ふっ。(嘔き出す)

亜衣 はい、次、私！

亜衣、ルーレット回す。

亜衣 3、タレントになれる！
縁 ぴったりじゃん、亜衣！
亜衣 やったー！

亜衣、跳び上がり、縁、絃とともに、コーラスラインの挿入歌を歌いながら、踊り出す。紡、笑顔で手を叩く。紅留美、亜衣に職業カードを渡す。

紅留美 ルーレットの数字かける五千マッチだって。
亜衣 了解！

亜衣、ルーレット回し、紅留美に手を差し出す。

紅留美 1。はい、五千マッチ。(亜衣に五千マッチを渡す)
亜衣 ええ？ これだけしかもらえんのん？ 不公平じゃない？
紅留美 タレントとか一握りしか売れんのんやけえ、そんなもんやろ。
結 (唐突に) じゃけえなん？ お金が心配じゃけえ、夢、諦めるん。
紡 結ちゃん、やめときなつて。
絃 (場の空気を和ませようと) 大丈夫！ ランクアップとかあるし！ まだ分からんやろ！
亜衣 なんなんよ、絃くん。自分が、医者になれたけえって調子に乗って。
絃 ふふん。
縁 はい次、結！

結、不機嫌なままルーレットを回す。

結 6。

縁 (6のマスを見て) フリーターは嫌やろうけえ、ビジネスマンか。

結 やだ。
縁 なんで？

結 (自分のイライラが処理しきれず) なんかやだ。

絃 結ちゃんは波瀾万丈の人生をお好みなの！

紅留美 夢を追って何も得られんフリーターが圧倒的に多いよ。

縁 大丈夫！ 結はカワイイから、玉の輿で逃げられる！

結 そんな言い方止めてよ。逃げない。

亜衣 (笑顔で、さりげなく紡を見ながら) 結には、運命の赤い糸が見えてるもんね。

結 止めてよ。

絃 ええっ！？ (自分の小指を突き立てて) ……赤い糸って思ったら、さっきのビニール袋の跡やった。

縁 びっくりしたあ。

紡 絃みたいなお調子者とながってるやつ、見てみたいよなあ。きつとお笑い芸人だな。

絃
驚くなあ、クールビューティだぜ！俺がメイクアップアーティストとしてさらに磨きをか

けちやうんです。

紅留美　じゃけ、縁つちや。

縁
(嬉しそうに) やっぱり？

えっ……（パントマイムで縁につながっているであろう糸をたぐりよせて切る）あ、赤い糸？赤い糸って……ないないないないないないない。

縁
(小指を見ながら落ち込む)……。

亜衣（人生マツチの盤上を見て）人生マツチってさ、ここで、必ずストップじゃん。結婚せん選択ってなくない？

縁 私、結婚したくないな。

縁には最初から無理。

縁、絃の言葉にしよぼん。

上手に玄関を設置。

#5 自治会費

自治会長と班長が登場。たて続けにチャイムを押す。

会長　壊れとるんやないん？

班長　　いつも留守なんよね。

班長、帰ろうとする。

自治会長、ドアに耳をあてる。

班長
大田さん！

でも、なんか、きやあきやあ聞こえん？

班長 居留守、使うちよるんかねえ。

自治会長、ドアノブを回す。

会長 鍵、開いちょうよ。(ドアを開け) 岡村さん、ごめんくささい。

自治会長、班長、交互に「岡村さくん」と呼びかける。

(リビン^グ)

紅留美 誰か来たつぽいよ。

えつ、やつぱ、チャイム壊れちよんかなあ。(玄関に応答しながら)はうい!

紅留美　　言ったやん、壊れとるつて。

亜衣、玄関に出る。

(玄関)

玄関には、縁、絃、紅留美の靴だけが置かれている。他三人の靴は靴箱の中。
亜衣、靴箱から靴を出し、玄関先に出る。

会長 こんばんは、自治会長の大田です。

班長 班長の小杉です。

亜衣 母は外出中です。

班長 (会長を引っ張って、目配せして) ね？

会長 やっぱり。

自治会長、班長、大きなため息をつく。

会長 仕事？

亜衣 はい。

班長 働き者なんよね。

会長 そんなに働いちよってんやったら早く自治会費も納めてもらわんとね。

班長 (再び会長を引っ張って) ちよつと、大田さん。

会長 ごめんなさい。私、黙っちよれんタイプやけえ。

班長 (亜衣に) 何時ごろ帰って来てんかねえ。

亜衣 分かんないです。夜までには一旦帰ってくると思うんですけど。仕事、掛け持ちしてるんで。

班長 よねえ。いつ来てもおっちゃあないもんね。

会長 そんなに働いてどうしてん？

亜衣 え？

会長 お父さんおっちゃないの？

班長 (三度会長を引っ張って) 大田さん、それを言うちやいけんですよ。

会長 (亜衣に) いやあね、お父さんおっちゃないけえ苦労しちよってんじゃないかなって心配しちよるんよ。

亜衣 あ、はい。

紡、亜衣を心配して玄関に出てくる。結も紡に続く。

会長 私たちも困るのよねえ。なんかね、自治会やちよる人は暇ぐらいに思われちよるでしょ？
でもね、あんたところみたいに「絶対無理です」って逃げる人がおるけえ、毎年毎年、押しつけられちよるわけ。

班長 そうよねえ。

亜衣 本当にすみません。

会長 仕事なんかねえ？ 本当はあんたに隠れてデートとかしちよってんやないん？

班長 (今度は強く会長を引っ張って) ちよっと、大田さん。それは娘さんに言うちゃいけないこと。

(亜衣に) ねえ。

亜衣 はい、仕事です。

会長 冗談よ。あなた、高校生？

亜衣 はい。

会長 高校生やったら、三千円くらい持ちちよるやろ。

亜衣 いや、ちよっと持ってないです……すみません。

紡 亜衣ちゃん、大丈夫？

結 私あるけえ、立て替えようか？

亜衣 いや、でも悪いし……。

会長 そうしたらええじゃ。彼氏もねえ、彼女が困っちよったら助けてあげんとね。

亜衣 (必死に) 彼氏じゃないです。

結 いいよ、明日とかにでも返してくれれば。

亜衣 でも、すぐ返せるか分からんし。

いつの間にか、絃、縁、紅留美まで覗きに来ている。

紅留美 三千円が返せんとかないやろ。

紡 森さん。

紅留美 紅留美でいいよ (決めポーズ)！

会長 じゃあ、みんなで割り勘して貸してあげたら？

縁 あ、いい！ 私出せるよ。

紡 俺、まとめて出しとくよ。

絃 (紡にじゃれついて揺さぶりながら) いやいや、紡はこの前俺に借りた五百円、まだ返してないでしょ。

紡 後で返すから。

結 じゃあ、一人六百円ずつやね。

亜衣 ほんとにごめんね。

皆、お金を取り出す。亜衣以外リビングに戻る。

班長 ええねえ、グループ交際かあ。

会長 損得なしに集まれるのは若いうちだけよ。まあよう楽しみなさい。(高笑い)

(班長と顔を見合わせ、ため息をつき) はあ、えかったね。やっと集まるわあ。

班長 大田さん、私なんか、はあ何十回って来ちよるけえ。

会長 何十回は大げさじゃろ。

班長 ごめん、ちよっと盛った。(高笑い)

亜衣 (みんなから借りたお金を班長に渡しながら) あのお支払いが遅くなって、何度も来ていただいて、本当にすみませんでした。

班長 (金額が合っているか確認しながら) じゃあね、お母さんによろしくね。
亜衣 はい。
会長 あんまり夜遅くまで出かけんことってお願いしちゃきんさい。
班長 はい、領収書。(亜衣に領収書を渡す) じゃあね。
亜衣 すみません。失礼します。

自治会長、班長退場。亜衣もドアを閉め、靴を靴箱にしまい、リビングに戻る。

(リビング)

紡 なにあのばばあ。
絃 皆あんな感じやろ。俺の近所の人もうるせえし。ご近所付き合いって難しいもんだよ。
亜衣 みんなほんとにごめんね。助かった。
紡 いいよ。
結 気にせんで。
亜衣 絶対返すけえ。
縁 おっけ！
絃 じゃあ早く続きやろうよ。
紅留美 喉乾いた。
亜衣 お茶飲む？
紅留美 お茶嫌だ。
紡 森さん。(お前、なに贅沢言ってるんだ！)
縁 じゃあ、コーラあるけど、飲む？
紅留美 炭酸？ 他の無いん。
紡 森さん！(わがまま言うなって)
絃 オレンジジュース。
紅留美 それがいい。
紡 (絃に) 俺、コーラ。
絃 (にやりとして) はーい。
紅留美 (オレンジジュースを注ぐとした縁に) それ果汁 10% のやつやん。砂糖の味かせん。
縁 飲むの？ 飲まんの？
紅留美 それしかないならそれでいいよ。
紡 森さん！(いい加減にしろ！)
紅留美 (決めポーズ) 紅留美でいいよ！
縁 はあ、ええけ。じゃあ注ぐよ。(オレンジジュースを注ぐ)
亜衣 こぼさんでよ！
紅留美 (縁に溢れるほど注がれたジュースを見て) 表面張力！
縁 すごいやろ！

その間に、絃、コーラをこっそり振る。

絃 はい、紡、コーラになりますよ。
紡 (コーラを受け取ろうとしながら) ありがとう。
縁 私も飲む！

縁、絃が紡に渡しかけたコーラを奪う。

絃 ちよちよちよ！ お前がやつちゃダメだって！

縁がペットボトルの蓋を開けた途端コーラが噴き出し、カーペットにこぼれる。

縁 うわあああ。

絃 ああ、もう、なにやってんだよ。

縁 絃、振ったんやろ？

絃 振ってないですう！

紡 何やってんだよ。

一同、慌てる。

亜衣、走って雑巾を取りに行く。

結 あ、さっきのタオル。

結、亜衣の家に入ったとき渡されたタオルをとり、一枚を紡に渡す。

紡 ありがとう。

結、紡はタオルで、絃は買ってきたウェットティッシュを使い、カーペットを拭く。亜衣は取ってきた雑巾で懸命に拭く。縁は、溢れたコーラのペットボトルをキッチンで洗い、ウェットティッシュで拭いている。紅留美、席に座ったままジュースを飲んでいる。

紅留美 何しよん。炭酸はさ、気をつけんかったらすぐ吹き出るんやけえ (縁に) 聞いとる？

亜衣 (必死で拭きながら) どうしよう。落ちん。

縁 もう、絃のせいよ。

絃 ごめんなさい、浅はかでした。

紅留美 小学生レベルよね。(ビニール袋の中の別のお菓子を漁る)

絃 亜衣ちゃん、俺の六百円返さんで、ええけ。

紡 いいから早く拭けよ。

亜衣 落ちて。お願い。

縁 なんか、テレビで見たことある。ちよっと貸して。(結のタオルをとり、必死でカーペット

を叩いて）こうやって、こうやって叩いたら落ちるんじゃないん？

絃 （縁を真似て必死に拭きながら）おお、これ、薄くなったんやない？

紅留美 （立ち上がりカーペットを覗き込んで）いいんじゃない？

亜衣 いや、そんなんじゃ全然ダメやし。

紅留美 そう？

亜衣の言葉を聞いて、縁、絃、結、困惑。紡はカーペットを拭き続けている。

亜衣、キッチンで雑巾を洗い直し、また、拭き始める。亜衣、明らかに動揺している。
紅留美、離れたところに座ってお菓子を食べる。

縁 でもさ、これくらいやったら大丈夫やろ？

絃 そんな目立たんし、濡れてるだけで、乾いたら全然分からんかも。

紡 絃、ふざけんな。

絃 いや、大丈夫やろ。

縁 良いこと考えた！ ずっとここに座つとけばよくない？ そしたらバレンやろ！

紅留美 縁、今日、帰らんのか？

縁 それいいかも。

亜衣 いや、うちのお母さん、まじ、怖いけえ。

絃 おお（「Feels like HEAVEN」を歌い、縁とともに茶化して踊り出す）。

亜衣 （手は休めずに）冗談じゃなくて。

紅留美 クリーニング出したら？

紡 クリーニングで落とせるかね？

紅留美 分からんけど、一応！

亜衣 いや、うち、今お金ないし。

紅留美 ああ、自治会費も滞納してたもんね。

紡 森さん！

紅留美 むにゅむにゅむにゅにゅ（決めポーズ）！（口の中に菓子が入っていて喋れていないが、「紅留美でいいよ！」と言っているのが分かる）

紡 何食べてんだよ。

紅留美 （菓子を飲み込んで）さっき食べて良いつて言ったじゃん。

紡 お前ら……！

一同 ……

結、タオルを洗いにキッチンに行く。紡と亜衣はカーペットを拭き続けている。

縁 （カーペットを確認しながら）もー、皆続きやろう。十分落ちたやろ。

絃 （真摯な態度で）ごめんね、亜衣ちゃん。これが最善かなって。

紡 お前、自分の責任なんだから、簡単に諦めんなよ。

結 （紡の勢いに驚き、キッチンから）……紡くん。

絃 (不満げに) いや……なんかさ……

縁、紡が激怒しているのに焦ってコーラを紙コップに注ぎ、紡に渡そうとする。

縁 落ち着いて。

紡 いい。

縁 (困惑し渡そうとしたコーラを飲んで) 一汗かいたあとのコーラはやっぱ最高。

紅留美 そんなに働いてないやん。

縁 そんなことないです。

紅留美 甘々。

縁 これ、カロリーゼロなんで。飲む？

紅留美 (首を横に振って) 炭酸。

紡と亜衣、まだ必死にシミを消そうと拭いている。

結、不快な顔でその様子を見つめる。

紡 (周囲には関係せず、亜衣だけを見つめて) 亜衣ちゃん、大丈夫？

亜衣 ……。

絃 (紡の後ろから近づき、紡のお尻を蹴り飛ばし) 一人でヒーロー気取りかよ。

紡 (前につんのめり、亜衣に接近しすぎて戸惑う。直後に振り向き、絃に) ふざけんな。

絃 (怒りを抑えられず縁や紅留美に向かって) 紡ってさあ……

縁 まあまあ(コーラを絃に差し出す)。

絃 (コーラを受け取り、ぐっと思いを飲み込んで) 二人の初めての共同作業って感じだから、

お邪魔しちゃ悪くない？

結、再び拭きに返ろうとしていたが、絃の言葉を聞いて立ち止まる。

縁と絃が木村カエラ「Butterfly」を歌って踊りだす。結も二人を真似る。

紅留美 結ちゃん、いいの？

結 (取り繕った笑顔で) 何が？

縁の携帯が鳴る。結、元の席に戻る。

紡 亜衣ちゃん、ごめんね。

亜衣 ……。

紅留美 (絃に小声で) 絃、結ちゃん傷つけた。

絃 違うって言いよったやん。

縁 お母さんだ。もしもし、今亜衣ん家。徳松アーツカレッジの近くなんよ。今、人生マツチしよる。終わりそうになったら連絡するけえ。えっとね、徳松駅の南側の一方通行のところを

突き当たりまでいったら、エロイカって怪しげな店があるから、その裏のアパートの七階の七〇三。「エロイカなおっさん」。オッケー？

縁が電話に応答している間も亜衣と紡は必死にカーペットを拭き続けている。結は二人を見つめる。

絃がスマホを取り出し、紅留美も絃のスマホを覗き込んで遊び始める。

紡 縁、何勝手に人の家教えてんだよ。

縁 後で迎えに来てもらうんやけえ。(電話に) ああごめん。うん、わかった。じゃあね。

縁 (絃の携帯を覗き込んで) あ、これ顔が変になるやつやろ？

#6 母帰宅

再び、縁の携帯が鳴る。

亜衣母の声が袖から響く。

紡 (縁に) ふざけんな。

母 (溜息をついて) なんで開いとるん。

亜衣 (ドアの音に気づき、びくと立ち上がり) タオル貸して。

亜衣、必死にタオルや雑巾を洗う。

縁 (電話に向かって) もう、何？ ええええつ、でもまだ人生マッチがさ……分かった、分かりました。それまでに終わらせます。じゃあね。

母、眉間に皺を寄せて、リビングの様子を窺いながらキッチンに入ってくる。

母はホームヘルパーのユニフォームであるポロシャツとジーンズを身につけている。

長くのばした髪は、後れ毛がかなり出ている。

母 (亜衣を強く引き寄せて、押し殺した声で) 何事？

紡 (母に気づいて) あ、こんにちは。

一同 (紡の視線を追って) こんにちは。

母 こんにちは。(亜衣だけに) 何事？

亜衣 えっと、雨が降って……。

母 雨、もうとつくに上がるとるけど。

亜衣 そうなんやけど、なんか、今日、体験入学で……。

母 (不機嫌を隠そうとせず) 体験入学って、あんた就職するんだから関係ないでしょ？
結 就職？

亜衣 なんか全員参加みたいなやつ。

母 本当？

紡 本当です！ 学年全体で大学とか短大とか専門学校に分かれて受講してたんです。そうですか。

結 (勢い込んで) ああ、でも、亜衣さん、本当は就職なんてしたくないんです。ミュージカルコースに進学したいんです。

亜衣 (驚き焦って) そんなことないって！

結 亜衣、ちゃんと言った方がいいよ。

紡 結ちゃん、やめときなっつて。

結 紡くんは、黙っとつて。亜衣のこと何も分からんくせに。

亜衣 結だつて、何も分かつてないじゃん。

結 (亜衣の言葉にショックを受けて、でも絞り出すように) ミュージカルスターになるつて。ミュージカルスターつて (鼻で笑う)。

亜衣 (母の顔色を窺つて) ミュージカルスターなんて笑えるよね。結はさあ、冗談が通じんけえさあ……

結 (必死で) 亜衣、なんで？

紡 結ちゃん！

亜衣 あ、それでね、雨が降ってきたけえ、みんな雨に濡れるけえ……。

紡 僕たちが押しかけちゃったんです。本当にすみません。

絃 お邪魔しちゃつてすみません。

縁 すみません。

紅留美 あ、でも、私たち、自治会費を立て替えてるんです。亜衣さん、持つてなかったんで。そうそう。一人、六百円ね。

母、財布を出す。財布を開くと同時に、硬貨が落ち、コーラをこぼした場所に転がる。一同に緊張がはしる。

紅留美 あ……おおつと。(硬貨を拾つて母に手渡し、そつとみんなに向かつてピースサイン)

母 ごめんなさい。今、細かいのないけえ、また亜衣に持たせるんで、いい？

絃 (明るく) ああ、別に僕は、困つてないんで、全然大丈夫です。

母 (「困つてない」にひっかかつて、少し卑屈に) ああ、ごめんなさい。

一同、ほおつと息を抜く。

紅留美 (能天気な) 役に立てて良かったね！ 人生マッチ再開しよう。

絃 (母に) あ、僕ら、雨宿りがてら、人生マッチやろうつてことになって、

縁 私がみんなでやりたくて、持つてきたんです。

母、キッチンに戻り、手を洗う。

亜衣、母の手にそつと自治会費の領収書を差し出す。母、領収書を取り財布にしまう。

絃　それで、ジュースもお菓子もわんさか買い込んで来ました。

母　そう。うち何もないけえ……ごめんね。

縁　大丈夫です。

紅留美　（また別の菓子箱を取り出し）これ食べるねえ。

縁　まだ食べるん？

紅留美　チャンスは生かさんとねえ。

縁　私にもちようだい。

絃　そういえば次誰？

母、窓の外を見るためにコーラをこぼした場所の近くに立つ。再び緊張がはしる。

母　（みんなを振り返り）もう、雨、上がとるけど。

亜衣　（母の帰って欲しいという意図を酌み）あ、そうやね、もう雨の心配ないね。

紡　そうだね、じゃあそろそろ……

紅留美　勝敗がついたら帰ろう。

母、リビング前のベランダにつながる窓を開ける。

洗濯物がまだとりこまれていないことに気付き、大きなため息をつく。

母　びしょびしょやん。

絃と縁はカーペットのことを指摘されたと思い、謝った方がいいのではないかなど話す。

母、一旦洗濯物籠を取りに浴室に向かう。亜衣も、洗濯物が干しっぱなしなことに気づき、慌てて靴下を脱いでベランダに出る。母、洗濯物籠を持って戻ってきて、洗濯物を取り込み始める。

（リビングの中）

紅留美　洗濯物じゃん。

縁　なんだ、びっくりした。ばれたかと思った。

紅留美　（お菓子を一口食べ）うわ、まずっ。マンゴー味？　誰が買ったん？

縁　私。

（ベランダ）

亜衣、母と一緒に洗濯物を取り込み始める。

母　約束……。

亜衣　ごめんなさい。勝手にあげて。

母　今日はお昼食べる暇なかったんよ……。

亜衣　あ、じゃあ私がやるけえ。もういいけえ、食べて次の仕事の用意して。

母
……

母、不機嫌なままベランダから部屋に入り、キッチンに向かう。

(リビング)

紡 (小声で) ほら、もう止めた方が良くないか。

紅留美 え、最後までやろうやあ。私、来た意味ないやん。

紡 森さん、お前、ただ自己チューなんだよ。

紅留美 それに今から親呼んでもすぐに来れんもん。

紡 じゃあすぐ連絡しとけよ。亜衣ちゃんもさ、なんか大変そうだし……。

紅留美 亜衣ちゃん、亜衣ちゃん、はいはい、亜衣ちゃん命！

再び激しく雨が降り出す。

亜衣、ベランダから入ってくる。母、キッチンで残りご飯を温めている。

絃 ああ、また、降り出しちゃったよ。

紡 早く止めて帰らんけえやろ。

絃 でも急に止めるってのも感じ悪くない？ 亜衣ちゃんのお母さんも、自分のせいで、みんな

盛り下がったって思いたくねえじゃん。

縁 じゃあ、亜衣を抜かして、さっさと勝敗決めよう！

亜衣 (通りすがりに) ごめんね。

縁 いいよ、次誰から？

絃 次、結ちゃん。

(キッチン)

母、不機嫌にキッチンの床で肩身狭そうに食事をとっている。亜衣、洗濯物を脱水機にかけるために、浴室に行く。亜衣が通り抜ける瞬間、母、亜衣を睨みつける。

(リビング)

結 (ルーレットを回して) 3。恋に破れて心を病み……。

縁 4千マツチ払うって！

紅留美 あ、でも、保険に入っとつたら半額だって！ ほらねえ。こういうときのために保険は必要なの。

絃 ニッセイのおばちゃんですか。

紅留美 誰が、おばちゃんですか？

縁 次私。

縁、ルーレットを回す。

縁 3！子供が生まれる。みんなから千マツチずつもらうだって！ やったー！ くれくれ！

絃 (縁のお腹を指して) 妊娠何か月？

縁 はぁ？ 殴るぞ、貴様。

紅留美 (亜衣の千マツチを縁に渡しつつ) 母は強し少子化時代。

絃 (千マツチを渡しながら) この後さ、保育園にあぶれるってマス、どっかにあるんじゃないの？

紅留美 「日本死ね」ってか？

亜衣、キッチンに戻ってくる。

(キッチン)

亜衣 (母に) 本当に、ごめんなさい。

母、大きくため息をつく。

(リビング)

縁 (手を出して) ちょっと、紡も。千マツチ。

紡 (ぼおっと亜衣を見ている) あ、うん (千マツチを渡す)

紡、お金を渡す。亜衣がリビングに戻ってくる。

亜衣 ただいま。

縁 おかえり。2回抜かしちゃったから、その分やって。

亜衣 うん、分かった。

亜衣、ルーレットを回す。

亜衣 2。ブロードウェイで公演があたり十万マツチもらえる。(小さくガッツポーズ) やった！

絃・縁 おお？ 「THE KING AND I」？

縁、絃、「王様と私」のダンスを真似てはしゃいで踊りだす。母、咳払い。

亜衣 (母を気にして) ちょっと。

紡 しーっ。

紅留美 (母がキッチンの影で食事を取っていることに気づき、カウンターから覗き込んで) あ、お母さん。そんなところで食べてるんですか？ 私達がテーブル使っちゃってすいません。

亜衣、ルーレットを回す。

亜衣 1。IT 事業で失敗し五十万マッチ払う。しかも 1 回休み。三十七万マッチ足りんしー。
縁・絃 (手を叩きながら小声ではやし立てる) 借金！ 借金！ 借金！ 借金！

亜衣 お願いじゃけえ、静かにして。

絃 縁のアンプがでっかいからです。

縁 はあ？ 何気にデイスリやがったな！

紡 お前らしい加減にしろよ。ほら、お母さんも疲れちゃってみたいやけえさあ。

紅留美 (縁に) この家筒抜けやけえね。

紡 森さん！

紅留美 (決めポーズ) 紅留美でいいったらあ！

母、子どもたちのやりとりをキッチンで聞いて不機嫌になり、苛立たしげにご飯を食べる。
母に電話がかかってくる。

亜衣 (声をひそめて) ごめんねみんな。気を遣わせちゃって。

縁 こっちこそ、ごめんごめん。

(キッチン)

母 もしもし。(少しときめいて) あ、はい。(亜衣たちの様子を見て) はい、大丈夫です。……
あ、今日はちよつと無理ですね 夜、もう一本仕事入っちゃってるんで。はい。次の休み？
どうかな？ 娘の三者面談も入ってますし……しばらく、余裕ないんですね。貧乏、暇な
しで……

(リビング)

亜衣、母の様子が気になり、カウンターの陰から母の様子を覗く。紡、亜衣の様子を見ている。

絃 あ、亜衣ちゃん、紡に二千マッチ。

亜衣 ああ、分かった。(心ここにあらずの状態で、二千マッチを紡に渡す)

母 養ってくれる人でもいたら、ゆつくりできもするんでしょうけど……世の中、甘くはないで
すよね。……はい。……はい。(嬉しげに) 止めてください。本気にしちゃいますよ。って、
うそうそ、結婚はもうこりこりなんです。難しい年頃の娘もありますし……はい。すみません。
……はい。失礼します。

亜衣、母を盗み見ている。

母、愛おしそうにじっと携帯を見つめて携帯を置く。

結 シーサー。

縁 なんでシーサー？

絃 縁っぽくない？

縁 私？

縁、シーサーの真似をする。
再び、携帯が鳴る。

(キッチン)

母 はい、どうしました？ (電話が期待していた人ではないと気づき) あ、チーフ、すみませ
ん。……え？ いえ、山田さんのお宅のリビングのテーブルの上に置いて帰りましたけど。

(リビング)

紡 亜衣ちゃん、大丈夫？

亜衣 あ、うん。(母の電話のやり取りを気にしつつ、ゲームに戻る)

(キッチン)

母 (バッグの中の手帳を取り出し確認して) ……いや、置いたはずです。……でも、ここから
三十分くらいかかるんですけど……。今夜は佐藤さんのお宅も入ってますし。……はい、分
かりました。今から向かいます。

母、いらいらと頭をかき、髪の毛を結び直す。

母 亜衣！

縁の携帯が鳴る。

(リビング)

縁 もしもし。

亜衣、キッチンに行く。結と紡、キッチンの様子を窺う。

(キッチン)

亜衣 仕事？

母 ちよっともう一回出てくるけえ。トラブルがあつて。そのまま次の仕事先に行くかもしれん
けえ。

亜衣 (ついぼろっと) 本当に仕事？

母 なに？ 仕事よ。それ以外に何があるって言うん？

亜衣 (取り繕って) ご飯、全然食べてないじゃん。

母 仕方ないやろ。クビになるわけにはいかんのんじゃないけえ。(友人達の方をさして) いい加減
にして、ちゃんと片付けなさいよ。

亜衣 うん、わかった。

二人、玄関に向かって退場。

(リビング)

縁 今日中華なんよね。

絃 また食べに行くん？

縁 満福楼行くんちゃ。

絃 あ、あの全部でかいところ？

紅留美 味より量のところ苦手。

絃 絶対太るけえあっこ。

玄関。縁母登場。

(玄関前)

縁母 こんにちは。

(リビング)

縁 (母の声が聞こえて) あ、もう来た。

絃 驚きの速さ。

(玄関)

母 じゃあ行ってくるけえ。

亜衣 行つてらっしゃい。

出がけの亜衣母と縁母が玄関で鉢合わせになる。

(玄関前)

縁母 あら、こんにちは。まあ、いつもお世話になってから。

母 どうも。

縁母 亜衣ちゃんあれよねえ、頭が良くて明るくて。ミュージカルやってんでしょ？

母 とんでもない。

縁母 うちもねえ亜衣ちゃん付きのメイクさんになるんで。

母 あのすみません。私、今から仕事なんで……。

縁母 まあ？ これから仕事？ 大変ねえ。

母 あの急ぎますので。

縁母 晩御飯どうしてん？ うち今から食べに行くけえ、亜衣ちゃんも一緒に連れてっちゃげようか？

母 結構です。

縁母 遠慮しちゃなくてええんよ。

母 結構です。
縁母 本当に？

いつの間にか、縁たちが来ている。

縁 お母さん、もう、邪魔やけえ、黙っとつて。
母 失礼します。

亜衣母、退場。

縁 なんか、亜衣のお母さん……

縁母 (苦笑い) お母さん、しゃべり過ぎたかね？

亜衣 すみません。

縁母 あら、私が悪かったんよ。おしゃべりやけえ！ あゝはっははっ。

紡 亜衣ちゃんのお母さん、きつと疲れちよってんだと思います。

縁母 そうね……疲れた顔しちよっちゃったわ。

縁 紅留美も乗せて帰っていい？

紅留美 あ、ママに電話……まいつか。

縁母 あ、絃くん。乗る？

絃 あー、紡はどうする？ 俺は帰るけど。

紡 俺はいいや。

絃 お、やっぱりねえ？

結 私が残る。

縁 バイバイ。

一同 バイバイ。

縁、ドアを閉める。玄関前で。

絃 (ドアの向こうを伺いつつ) なんかな危険な香りが漂ってるけど、大丈夫かな？

縁 (絃に) やめちよきいつて、ね。

絃 ああ、ごめんごめん。

縁母 久米ヶ浜じゃったよね？

絃 はい、大丈夫ですか？

縁母 朝飯前よ (縁と同じ決めポーズ)！

絃 夕食前ですけどね。ありがとうございます。(決めポーズ)

紅留美 さすが親子 (と決めポーズを真似る)！

絃、縁、紅留美、縁母、退場。

#7 絡み合う気持ち

亜衣、紡、結、玄関からリビングに戻る。

亜衣 二人はどうするん。

紡 俺、雨上がってから帰ろうかなって。いいかな？ あ、片付けるの手伝うよ。

亜衣 うん。本当？ ごめんねー。

結 私も手伝うけえ。

亜衣 ごめん。

亜衣、キッチンで、母の残したご飯を冷蔵庫に入れる。

紡、結、リビングのペットボトルや紙コップ、ゴミを片付け始める。

紡 亜衣ちゃん、コップどうすればいい？

亜衣 キッチンに持って来てくれる？ 私、まとめて捨てるけえ。

紡 了解。

亜衣、キッチンカウンターに母の携帯があることに気づく。

亜衣 あ、お母さん、携帯……（周りを見回し、携帯を覗き始める。）

亜衣、動悸を押さえるために、深呼吸をする。

結 （亜衣に）ポテチとかまだ落ちとるじゃん。亜衣、掃除機かけよっか？

紡 掃除機、さつき、玄関横の納戸にしまったよね。勝手に出していい？

結 （紡の問いかけに答えない亜衣を不審に思い）亜衣！

亜衣 （なかなか携帯から目が離せなくて）え、何？

紡 亜衣ちゃん、大丈夫？

亜衣 なにが。

結 だから、掃除機、勝手に出しちゃって良い？

亜衣 ああ、かけてくれるん？ ごめんね。

紡 俺持ってくるよ。

結 ありがとう。

紡、掃除機を取ってくる。

結、亜衣を後ろからじっと見つめる。亜衣は携帯をじっと見ている。

結 （紡が掃除機を持って来たのに気づき）あ、かけるよ。

紡 ありがとう。

結、掃除機をかけ始める。紡、テーブルの上の紙コップをカウンターに運び、後ろから亜衣を心配そうに覗く。

紡 (掃除機をかける結の耳元に口を寄せて) なあ、結ちゃん……結ちゃん、ちょっといい？

結 (どきっとしてちょっと嬉しそうに) 何？(掃除機を消して紡の側に寄る)

紡 亜衣ちゃんのことなんやけどさ、

結 (ちよつと残念) ああ、うん。

紡 なんか、うち、大変そうじゃん。

結 あ、うん。

紡 結ちゃんさ、ミュージカルコースってこだわってたけど、あれ、やっぱり無理なんじゃないかな。

結 ……

亜衣、ドアの音に気づき焦って携帯を閉じる。

母がキツチンに入ってくる。結と紡、びくつとして振り向く。

母は、そのままキツチンに入ってきて、置き忘れていた財布を鞆に入れる。紡と結がまだ残っていることには気づかない。

亜衣 おかえりなさい。

母 時間ないのに、財布忘れて最悪……。

亜衣 (携帯をおそろおそろ差し出し) 携帯、忘れてった？

母 (携帯を見ているので、紡や結に気づかない) やつとあの子たち帰ったのね。

結、紡、母の言葉に慌てて、思わずカウンターの陰に隠れる。

亜衣 (ちよつと紡や結の方を気にして) あ、うん、でもまだ……。

母 ちよつとしか休めんのに、食事も全然とれなかったし。もう二度と人をあげんてよ。

亜衣 うん。

母 (カウンター越しにリビングを見て溜息) 汚な。あの子たちの親はどんな躾しちよん。

母、つい片付けようと、結と紡のいるリビングへ向かう。亜衣、母を引き留める。

亜衣 お母さん！ ……ご飯温めようか？

母 (亜衣を振り返り、時間がないから掃除などできないことに気付く) そんな暇ないね。友達と家を散らかす馬鹿娘のために、働き続けとるんやけえ。

亜衣 ごめんなさい。

母 ええよね、あんたは。(水を飲むとして、シンク前にいた娘を押しつけ) どいて。

亜衣 ……。

母、水を飲む。

母 (亜衣がじっと見ているのに気付いて) 何その顔。言いたいことあるなら言いいね。やめてよ、そんな顔でこっち見るの。父親そっくり。思い出すのも嫌。

亜衣 ……ごめんなさい。

母 ごめんなさい？ いっつもごめんなさいごめんなさいって、そんなに私を悪者にしたいん？

亜衣 ……

母 泣いとるん？ ええよね、あんたは。私は泣くこともできん。

結、立ち上がって母に何かを訴えようとするが、紡が止める。

母、荷物を持って退場するが、すぐに戻ってくる。紡、一瞬顔を出すが、母を見て慌てて隠れる。

母 洗濯物、脱水かけたままじゃないの。腐るやろ？

亜衣 あ、ごめんなさい。干しとく。

母 亜衣、本当、しっかりして。早く大人になって。

亜衣 うん。ごめんね。

母、退場。亜衣、玄関まで、母を送る。

結、紡、亜衣の様子を見守り、母が出て行ったのを確認してカウンターの陰から出てくる。

亜衣、そのまま脱水機に入ったままの洗濯物を取り出しに行く。

紡 亜衣ちゃん、大丈夫かな？

結 なんか、亜衣……可哀想。

紡 結ちゃん、俺、亜衣ちゃんを守るよ。

結 ……紡くん、私よく分からんけど、なんかものすごいショックじゃったけど、でも、紡くんが、亜衣を守るって言うの、亜衣にはちよつと迷惑……？ (紡のぎよつとした顔に反応して) いや、迷惑じゃなくて、お節介っていうか、なにができるわけでもないじゃん……は？ ごめん、ちよつと意味分かんないだけ。結ちゃん、もしかして、俺に怒ってる？ いや、怒つとるとかじゃなくてさ、なんか家族のことだし……

紡 (怒りがこみあげてきて) 今日、ずっと思ってたんだよね。結ちゃん、何かっていうと……俺のこと、嫌ってる？

結 (啞然) 私が、紡くんのこと……？ (思いが伝わらないことに愕然とし、言葉にできずに、嗚咽を漏らし、涙をこぼしてしまう)

結、掃除機のスイッチを入れては消し、入れては消しの繰り返し。

亜衣が洗濯物をかかえて、戻ってくる。

亜衣 (ものすごく明るく) ごめんね。(二人の気まずい空気に気づき) え、どしたん？

結 あ、いや、なんか、掃除機の埃がさ……

亜衣 うちの古いけえさあ。相当埃たまつとるよね。

結 いや、私が悪かったんっちゃ……

紡 亜衣ちゃん。ごめんな。急に押しかけて。

結 本当、ごめん。

紡 お母さん、その……大丈夫かな？

亜衣 ああああ、やっぱ聞かれちゃった？（道化のようにおどけた様子で）うちの鬼母の叫び

……そうなの、いつもこうやって、罵詈雑言浴びせられてます。でも、全然大丈夫！ 日常茶飯事だから、全然慣れてるし。今から、晩御飯作って、ごますつとく！

結、紡、亜衣の痛々しいおどけぶりに啞然とする。

紡 本当？ あの、俺、亜衣ちゃんの力になりたいから。

亜衣 大丈夫。なんか、可哀想な子に見えとる？

紡 あ、いや、その俺、なんて言ったらいいかわかんないんだけど。

亜衣 もう！ それなら、結の力になってあげてよ、鈍感だな。

結（暗い声で）……やめてよ。

結の携帯が鳴る。

結 あ、お母さんからじゃ。……もしもし……、今、亜衣んち……

結、玄関側の廊下で電話に出る。

紡 亜衣ちゃん。

亜衣 何？

紡（もじもじしながら）あの……えっと。

亜衣 え、何？

紡 俺と、と……。

亜衣 ああ、トイレなら玄関の横。

紡 いや、そういうことじゃなくて、俺と……。うまく言い出せなくてもがく

亜衣 だから、使つていいよ。

紡（思わず怒鳴って）だからトイレじゃないって！（我に返って）あ、ごめん……。

結、廊下で電話をしていたが、紡の怒鳴り声に驚き、戻ってきてリビングを覗く。

紡、窓の外の月を見つける。

紡 あ……月が綺麗ですね。（言った瞬間、恥ずかしくなって背を向け、顔を覆いながらゆつくりと振り向き、そっと亜衣の様子を窺う）

亜衣 うわぁ！ 本当だぁ！ ……満月だ。

亜衣、窓を開けて、空を見る。紡、嬉しそうに、亜衣の後ろに寄り添う。

亜衣 （遠い目をして） でも……月が眩しすぎて見えんけど、本当は星も綺麗よね。

紡 うん、きつと。

亜衣 人って死んだら、星になるんかね。

紡 えっ？

亜衣 星になりたいな。死んだら生まれ変わらんでいいけえ、星になりたい。人間はもういいな。

紡 （亜衣の肩を抱き） 亜衣ちゃん、なんか嫌だよ、そういうの……。やっぱり何か…。

亜衣 （あわてて紡の手をふりほどき） いや、そういうんじゃないくつて。

結、廊下から、電話で話しているふりをして、二人の会話を聞いている。二人は気づかない。

紡 俺でよかったらさ、別につきあうとかじゃなくてさ、相談相手っていうか、友達っていうか、

俺、もっと亜衣ちゃんと話したいんだよね。

亜衣 ごめんね。でも、私、全然大丈夫やけえ。

紡 本当に大丈夫？

亜衣 大丈夫。

紡 俺には、大丈夫には見えなくて、なんだか心が痛くて。

亜衣 私、全然、可哀想な子じゃないし、そんな同情されても困るし。だからね、

でも俺は、亜衣ちゃんのことを……！

亜衣 もう！

亜衣、紡の言葉を強く遮る。紡、圧倒される。結、悲しげに二人を見つめている。

一瞬、場が凍りつく。そこにヒグラシの鳴き声が響く。

亜衣 ……ほっとつて。

紡 ……？

亜衣 紡くんにはわからんと思う。

紡 ああ、そつか。……俺、馬鹿だし。（顔を上げて） ……なんか、月が眩しくて……（臉を押さえる）

結、戻ってくる。

結 （何も知らないかのように明るく） お母さんに自力で帰れって怒られちゃった。

紡 いいんだよ、それぐらい厳しい親の方が。

亜衣 （慌てて周囲のものを片付けつつ） 雨も上がったし、遅くなるといけんけえ、二人とも今日は帰って。

結 でも、まだ掃除機かけてないし。

亜衣 そんな私がやるけえいいって。あ、紡くんに途中まで送ってもらいよ。

紡 あ、うん、送るよ。

結 でも、亜衣と話したいことがあるけえ。(紡に) ごめんね。

紡 じゃあ、掃除機かけて待ってどうか？

結 ううん、本当に二人つきりで話したいけえ。

紡 ああ、そっか。ごめん、じゃあ先帰るね。

紡、寂しそうな背中を見せ、荷物を持って素早く退場。

亜衣、玄関まで見送る。リビングから、複雑な表情で二人を見守る結。

紡 (靴箱を開けて) じゃあね。

亜衣 じゃあね。ばいばい。

8 仕合わせ？

亜衣、玄関から戻ってきて、洗濯籠を持ち、ベランダに出ようとする。亜衣をじつと見守る結。亜衣の背中に声をかける。

結 亜衣。

亜衣 何？

結 何じゃないよ。なんであんなひどい言い方したん。私に気い遣ったん？

亜衣 え？(そのまま洗濯籠を持ってベランダに出る) そんなことないよ。

結 紡くんは、亜衣のことが好きなんよ。……残念ながら。

亜衣、結にすべて見られていたことに気づき、言葉を一瞬失う。

亜衣 ……(洗濯物を干しながら)だから止めてったらあ。全国 5 千万人の私のファンに刺されるやろ？

結 相談に乗ってもらったらいじゃん。なんであんなひどい言い方するん？ 紡くん可哀想じゃん！

亜衣 それは、本当ごめん。でもさ、結からさ、亜衣はあんな奴だけど、根っから悪い奴じゃないよって言っちゃってよ。

結 自分で謝りいよ。

亜衣 多分、私はもう紡くんとは話さんけえ。

結 なんで？

亜衣 (洗濯物を干す手を止めて) なんか、そういうの苦手。

結 え？

亜衣 (何かがこみあげてきて) ごめんって！ (結を押して、荷物を無理に持たせ、帰らせよう

とする）お願い、もう……結、今日は本当にごめんね。晩御飯の準備あるけえ帰って。

結、荷物を放り出す。

結 （押し返して）でもまだ何も話せてないし、掃除機だって……。

亜衣 （さらに押して）いや、またお母さんに見つかったら、私八つ裂きやけえさ。

結 （必死で踏みとどまって）じゃあ、速攻で掃除機だけかけさせて。

亜衣 いや、そんなん私がやるけえ、いいって。

結 （叫びにも似た声で）もう亜衣！ お願い。

亜衣 ……じゃあ、掃除機だけお願いします。

結 ありがとう。

亜衣、結の「ありがとう」に戸惑う。BGMに諫山実生『糸』が流れる。

結、掃除機をかけ始める。亜衣、結をじっと見つめた後、ベランダに出て洗濯物を干す。

結、時々、ベランダの亜衣の様子を見守る。

亜衣、洗濯物を干すのを終えて、ベランダの手すりに沿って歩く。

掌の水滴を見つめてから、空を見上げ、幼い頃のように見えない風船の糸に手を伸ばす。

そして、ゆっくりと視線を下に降ろし、ベランダの下を覗きこむ。

結、亜衣の様子が不安になり、掃除機を止める。

結 亜衣！

結、ベランダに飛び出してきて、後ろから亜衣を抱きしめる。亜衣の存在を確かめようと、

肩や腕をしっかりと掴む。

亜衣 うわ、何？

結 亜衣が落ちてしまいうんじゃないかって。

亜衣 え？

結 （亜衣の腕をしっかりと確認しながら）消えてしまいうんじゃったんよ……

亜衣 もう、びっくりするじゃん。

結 ごめん。怖かったんよ。

亜衣 （おどけた調子で）まあ、消えてみたいとは思うけどね。

結 ……辛い？

亜衣 （暗い雰囲気から逃げ出すように踊り出す）おおっと、シリアス？

結 ふざけんで。

亜衣 シリアス、苦手なんよ。

結 私に本音みせるのが嫌なん？

亜衣 （踊りながら）いや、なんていうか、フィクションとかファンタジーに生きてたいんだよね。

だから、女優志望なわけ。（おどけて、掛け声を発する）フウ！

結 私、ものすごいショックじゃった。
亜衣 ああ、うちの鬼母？
結 亜衣が相談してくれなかったこと。
結 ショックすぎて、爆死するかもって思った。亜衣がビジネスコースに参加したって聞いたとき。
亜衣 ごめん。
結 亜衣は強いんじゃない？
亜衣 そうかねえ。
結 自分のことはちゃんと自分で決めれるんや。
亜衣 選択肢ないからね。
結 私は嫌なんよ。
亜衣 何が？
結 本当の亜衣と話したい。
亜衣 （自分の顔を叩いてみせながら）私、本物よ。
結 （亜衣の手を取って）私にも本当の気持ち、見せてくれるの？
亜衣 ……ごめん。私にも……自分の気持ちとか……分かんし。
結 ……自分も分からんって。
亜衣、
手すりに凭れて空を見上げる。ヒグラシが哀しげに鳴いている。
亜衣 ねー、結。
結 何？
亜衣 蝉になりたい。
結 なんそれ。
亜衣 私の将来の夢、蝉でいいな。蝉になるには、どんな進路を進めば良いんやろ。
結 ふざけんで。
亜衣 蝉みたいに、何も考えずにいたい……。
結 （亜衣の心にちよつと触れた気がして、亜衣の横に並びわざと明るく）わからんよ、蝉にだって悩みあるかも。「また今日のご飯木の汁かよ」とか。……「たった一週間かよ」とか。訊いてみるとわからんけど。蝉も本音は教えてくれんじやろ。
亜衣 ……じゃあ、（おどけて）縁になる。
結 （吹き出して笑う）それ、いい！
亜衣 （嬉しくなって、縁のマネを大げさにして）「朝飯前（決めポーズ）！」
結 縁だって悩んだるやろ。
亜衣 いやいや、悩んでないでしょ？
結 「ポテチのマンゴー味失敗した！」とか。
亜衣 確かに、食べ物がらみ多そう。（空元気でやたらに高い声で笑い続ける）
結 結婚したくないって言いよったやん。言わんだけで、いろいろ抱えとるんよ。
亜衣 じゃあ、結も？

結 悩むよー。明日体育あるし、数学嫌いやし、自転車立ち漕ぎできんし……
亜衣 (嬉しくなって) あれ、思ったよりなんかしよぼい。
結 ひどい！ ちゃんと悩んどるよ。
亜衣 (おどけて) ごめくん！
結 それに……
亜衣 (茶化して) なになに？
結 ふられちゃったし……？
亜衣 (戸惑って) ……まだ分からんじゃん。告白もしてないくせに。
結 分かるよ。他の人が好きなんじゃけえ。
結 人には諦めるなって言うくせに。
結 だって、好きな人が親友を選んだんよ？ 応援せんって思うじゃん。
結 応援なんてしないでいいよ。
結 親友には幸せになって欲しいんよ。
結 (慌てて) でも親友はその人のことをなんとも思っていないんよ。
結 嘘。
亜衣 (焦って嘘くさいほど強調して) 本当だよ。私、紡くんのことは、いい人だって思うけど、
結 でも全然好きじゃないもん。
結 ……悔しい。
結 ごめん。
結 謝らんで、惨めになるけえ。
結 (「また、謝って人を傷つけてしまった……なんで、私はこうなんだろう？」と、すべての
亜衣 思いを吐き出すかのように突然絶叫！) あああああ。(一瞬にして正気に戻って周囲に配慮
結 し慌てて口元を押さえ、息だけを漏らす) あああああ、どう生きたら楽になるんやろ。
結 生きたる限り無理かも。でも死んだらいけん。
結 なんで死んだらいけんのんかね。
結 ものすごく痛い。
結 まあ、死ぬ瞬間はやろ。でも、その後楽になるじゃん。
結 ダメ。周りが悲しむ。
結 誰が？ 全国 5000 万人の私のファンが涙に咽ぶ。ふふふ。
結 また言ってる。
結 私がいなくなっても、世の中は変わらず動いていく。
結 ダメ！ 紡くんが悲しむ。
結 紡くんには、結がおるけえ大丈夫。
結 私が……悲しい。
結 ……ごめん。
結 それに……お母さんも。
結 お母さんも？
結 きつと。
結 (洗濯物干しを回しながら) ……なんかうまくいかんのんよね。いつも空回り。

亜衣 お母さんは私のために頑張ってくれちよるけえ、何かせんにやあって思うのに、いつも疲れさせるんよね。

結 そっか。

亜衣 お母さん、私のこと、嫌いなんよ。ふふ。

結 どうなんかね？ でも、亜衣のために、昼も夜も働いてくれとってんやないん。

亜衣 でも、私、お母さんのこと疑った。

結 亜衣だけじゃないよ。本音ってわからんもん……

亜衣 そうよね。分かっちゃんよ。でもね、あー……。 (言葉を失ったかと思うと、顔を上げて両手で目を覆う。結に見えるのは、口元のみ)……私が駄目なのは分かっちゃるんよ。でもね……なんで私だけだめなん、なんで皆笑っちゃるのに……私だけ違うんって思うんよ。

結、亜衣を抱きしめる。

結 ……ありがとう。

亜衣 え？ なんで？

結 なんか、本当の亜衣やなって。

亜衣 ふふ。

結 亜衣はだめなんかじゃない。だってよく分からんけど、亜衣のこと、めっちゃ好きじゃもん。

亜衣 突然の愛の告白？

結 ううん、結の告白。

亜衣 ええ？ なにそれ。

結 大丈夫、きつとなんとかなる。

亜衣、何度も頷く。二人抱き合ったまま。やはり、ヒグラシが鳴いている。

亜衣 あったかい。ってか、暑い。

結 亜衣、ふわふわ。

亜衣 えー？ それって、デブってこと？ (結の腕を掴む)

結 違う(亜衣のお腹周りを触って)、ここがふわふわで気持ちいいの！

亜衣 なんそれ！

結 (笑い合いながら自分の足元を見て) もー靴下びしよびしよ。

亜衣 (結の腕を離し、手を合わす) あ、ごめん。

結 いいよ。(照れて、部屋の中を見て) あ、掃除機やりっぱなしやった！

亜衣 (結を真似て) いいよ。

結、掃除機をかける。

亜衣 (洗濯籠を持って入りながら) 結！ (「この思い、なんて言ったらいいか分からない……」言葉に迷って)……ありがとう。(初めて「ごめん」じゃなく「ありがとう」って言えた！)

結 (微笑んで) うん。

亜衣、洗濯籠をしまうため退場。

結 (掃除機をしまいながら) お母さんに、ご飯、作っちゃあげるんじゃない？
亜衣 うん。

結 何、作るん？

亜衣 えっと、カレーとか？

結 夜遅くに帰ってきてんじゃない？

亜衣 うん。

結 それはちよつと重くない？ (掃除機を持って退場)

亜衣、結、リビングに入ってくる。

亜衣 私、レポートリー少ないけえなあ。

結 じゃあ、出汁巻き卵は？

亜衣 えー、いきなりレベル高すぎじゃない？

結 でも、ふわふわで、優しくて……愛を感じるよ。

亜衣 じゃあ、やってみる！

結 手伝おうか？

亜衣 うん。……あ、やっぱ自分ひとりで頑張ってみる。愛 (亜衣) を込めて！ ふふふふ！

結 うん、がんば！

亜衣 ありがとう。

結 じゃあ、帰るね。

亜衣 うん。じゃあまた明日ね。

結 また明日。

亜衣、結とともに玄関へ。結、玄関より退場。

残された亜衣、気合を入れて出汁巻き卵づくりを始める。

暗闇に浮かび上がるキッチン。小さな部屋に響く、卵を割る音、かき混ぜる音、卵の焼ける音。

BGMに諫山実生の『糸』二番が流れる。 溶暗。

#9 亜衣と…

母がキッチンの明かりをつけ入ってくる。

暗くなったリビングのベッドでは亜衣が寝ている。

母、疲れた表情で、水を飲む。

母、リビングの明かりをつけた瞬間、テーブルに置かれた出汁巻き卵とおにぎりをみつける。

テーブルの前に座り、傍らに置かれた亜衣からの手紙を読む。しばらく動けない。

母

（亜衣とだし巻き卵を交互に見て）なんなんこれ？ 出汁巻き卵じゃなくて、スクランブルエッグじゃん。

母、出汁巻卵を食べ始める。BGMにももちひろこ『a n d I』二番が流れる。

母、がつがつとむせるほどの勢いで食べ、胸を詰まらせる。

バトンに吊した糸を編んだ布のモチーフを二方向から異なった色の照明が照らし出す。中央で混じり合う色が意味するものは……？

幕

亜衣の思いは、母に届いただろうか？

亜衣に、母の思いは届くのだろうか？

